

第15回 中国残留日本人の体験を聞く会

同時開催 満洲移民の写真・パネル展 ～地域共生社会の実現のために～



岩井梅子（中国帰国者）作 切り絵「お母さん、会いたい！」

「私は日本人でもない、中国人でもない」

そうつぶやきながら故郷で生き、故郷で老いを迎える中国残留日本人に、私たちはどういう眼差しを送ってきたでしょうか。

文字ではなく、声で語られるその体験に耳を傾け、共に生きていくために何ができるのか、一緒に考えてみませんか。

【日 時】 2023年2月23日（木曜日・祝日）

【会 場】 東広島市市民文化センター 2階 展示コーナー 研修室1・2
（東広島市市西条西本町28番6号）

【内 容】 10:30～15:30 満洲移民の写真・パネル展 無料・予約不要
（会場：2階 展示コーナー）

13:00～15:00 中国残留日本人の体験を聞く会 無料・要事前予約
（会場：2階 研修室1・2）
定員50人

☞ 歴史ミニ講座「広島からの満洲移民」

（講師：広島大学 河本尚枝准教授）

☞ 満洲関連動画上映

☞ 中国帰国者一世及び二世による体験発表

【お申し込み】 下記お問い合わせ先にお電話でお申し込みいただくか、
右のQRコードから申込フォームにご記入ください。

【お問い合わせ】 （社福）広島県社会福祉協議会

中国・四国中国帰国者支援・交流センター

電話：082-250-0210



主催 中国残留日本人の体験を聞く会実行委員会

共催 中国・四国中国帰国者支援・交流センター、公益財団法人 東広島市教育文化振興事業団、
科学研究費「日系高齢マイノリティの『その人らしい暮らし』を支援するための基礎研究」（基盤研究（C）18K02104）

後援 広島県、東広島市、日中友好協会広島支部

戦前から戦中にかけて海を渡って満洲に向かった人たちには、国策として送り出された約30万人の開拓団員もいました。昭和20(1945)年8月9日、ソ連の満洲侵攻で何万人もの日本人が逃げ惑い、家族と生き別れた子どもや女性たちは中国人家庭で生活を始めました。昭和47(1972)年の日中国交回復後、中国に残ったまま生活していた多くの日本人孤児たちの肉親探しが始まり、「残留孤児」をはじめとした中国残留日本人は、家族とともに永住帰国を果たしました。戦後30年以上を経て行われた日本への永住帰国は、中国残留日本人だけでなく、子どもや孫世代にも大きな影響を与えています。

「中国残留日本人の体験を聞く会」は、「日本語がうまく話せないけれど、私は日本人。その理由を、中国帰国者の存在を知ってほしい。」という中国帰国者の声を受け、広島県内各地で満洲移民の歴史と中国帰国者の体験を伝える活動を14回開催してきました。第15回を東広島市で開催します。中国残留日本人がどのような思いで戦後を過ごしてきたか、耳を傾けてください。

【ご来場の皆様へ】

- ご来場はできるだけ公共交通機関をご利用ください。
- ご来場の際は、新型コロナウイルス感染防止のため入場前の手指消毒、検温、マスクの着用をお願いします。
- 開催当日、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置または広島県独自の集中対策などが講じられている場合、写真・パネル展、「体験を聞く会」とも中止いたします。

【アクセス】

- JR西条駅から徒歩5分
- 西条インターから車で約15分
- 駐車場は道路をはさんで向かい側です。無料（60台）

